

～裏面トピックス：議会報告会に向けて～

9月定例会の主な議題

第3回定例会は、9月15日から14日間の日程で開催され、債権管理条例の制定、22年度各会計の決算認定、固定資産審査委員、公平委員の人事案件など議案30件、意見書案7件を原案可決、認定、同意し、28日閉会しました。

また、一般質問では6名の議員が次のとおり質問しました。

（質問・答弁の内容は、発表順で構成され、簡略化されています。）

◆新政クラブ

竹村 恵一



【質問】市立病院の不要備品の再利用について

【答弁】患者用ベッドがあり、使用可能なベッドは約1000台、内部での破損・故障による交換なども予測し50台程確保を考えておきたい。それを除いても50台程の余剰がある、今後は市内医療機関、福祉・介護関連施設、在宅介護希望者などへの譲渡や貸出などを検討していきたい。

【質問】体育施設の市営テニスコートの管理について

【答弁】市営テニスコートは4つあり、使用料は原則無料としていましたが平成21年度よりスポーツセンターコートについては有料化を図った。整備は大町は中央中学校で、整

文京は赤平中学校で、茂尻は

ものづくり企業と連携を図り、観光ルートマップの作成を計画、産企協、観光協会と連携を図りながら、エルム高原活性化計画策定の協議を進めていきたい。

【質問】住環境整備について

【答弁】茂尻第一団地の事業先延ばし等により、地域の方々にはご不便をおかけしたが、建替え事業の計画的な推進や既存団地の長寿化などに努める。

【質問】市立病院の経営安定の取組みについて

【答弁】医師確保が経営の安定に対する喫緊の課題であり、特にこの一、二年は当院に在籍した経緯のある方、赤平に縁のある方に対し積極的にアプローチしている。また、研修医確保の努力等を含めて医師とのネットワークを絶やさぬよう進めていきたい。

【質問】スポーツの振興について

【答弁】中体連の大会では近隣校との合同チーム結成を認めている。新たな部活動については指導教員の存在も不可欠であり、学校の判断が大きな要因となってくる。

【質問】エルム高原の将来のビジョンについて

【答弁】広域的観光ルートの開発としてエルム高原や炭鉱遺産をはじめとする産業遺産や優れた技術力を要する市内の

跡地等の市有地の活用は定期借地権を導入することを検討する。

【質問】使用料等の見直しについて

【答弁】現状の財政は依然として厳しいが財政が好転すれば他市と比較して高い軽自動車税・固定資産税等の引き下げについて検討していきたい。

【質問】節電対策について

【答弁】節電については早くから実施しており効果を挙げている。LEDの切換えは順次切り換えていく予定。特定規模電気事業者からの電気の購入は契約実績が少ないので様子を見たい。

【質問】改正介護保険法について

【答弁】法改正は民間事業者を対象とした定期巡回、随時対応サービスで、現状の赤平での実施は難しいと思われるので少し様子を見たい。

【質問】最近多発するゲリラ豪雨への対応、対策について

【答弁】災害復旧事業は二次災害防止のためにも緊急を要するので、調査し対応していく。また、公共災害には認定基準があり、その他の整備については制度の動向や財政状況における全市的な事業の中での優先順位を考慮しながら今後の整備の可能性を検討してい

きたい。

【質問】子育てと地域連携について

【答弁】現在、6つの地区育成会とスポーツ少年団が2団体あるが、指導者が少なくなるのが現状。しかし、管理職を除き、地元に住んでいる教職員は少なく、その要因は教職員の住環境問題がある。配置計画の中でも含まれていく問題なので、今後、協議していきたい。

【質問】学校統合と今後への地域対策について

【答弁】今後進めるにあたり、保護者及び地域と十分協議しながら進めていきたい。

【質問】市職員の地域参加について

【答弁】職員も地域住民の一人であり、年々地域活動に参加する職員が増えている。

【質問】地域担当制について

【答弁】協働のまちづくりは基本であり、検討していく。

【質問】原発事故と今後のエネルギー政策について

【答弁】本道にも泊原発があり、道民や赤平市民も不安を感じていることと思いますが、北海道及び北海道電力においても、今回の震災を教訓に、より一層安全対策を講じるよう要望していきたい。また、国民の間でも自然エネルギーなど新エネルギーに対

（裏面へ）

◆民主クラブ

向井 義擴



【質問】最近多発するゲリラ豪雨への対応、対策について

【答弁】災害復旧事業は二次災害防止のためにも緊急を要するので、調査し対応していく。また、公共災害には認定基準があり、その他の整備については制度の動向や財政状況における全市的な事業の中での優先順位を考慮しながら今後の整備の可能性を検討してい

きたい。

【質問】子育てと地域連携について

【答弁】現在、6つの地区育成会とスポーツ少年団が2団体あるが、指導者が少なくなるのが現状。しかし、管理職を除き、地元に住んでいる教職員は少なく、その要因は教職員の住環境問題がある。配置計画の中でも含まれていく問題なので、今後、協議していきたい。

【質問】学校統合と今後への地域対策について

【答弁】今後進めるにあたり、保護者及び地域と十分協議しながら進めていきたい。

【質問】市職員の地域参加について

【答弁】職員も地域住民の一人であり、年々地域活動に参加する職員が増えている。

【質問】地域担当制について

【答弁】協働のまちづくりは基本であり、検討していく。

【質問】原発事故と今後のエネルギー政策について

【答弁】本道にも泊原発があり、道民や赤平市民も不安を感じていることと思いますが、北海道及び北海道電力においても、今回の震災を教訓に、より一層安全対策を講じるよう要望していきたい。また、国民の間でも自然エネルギーなど新エネルギーに対

（裏面へ）

◆日本共産党

大道 晃利



【質問】原発事故と今後のエネルギー政策について

【答弁】本道にも泊原発があり、道民や赤平市民も不安を感じていることと思いますが、北海道及び北海道電力においても、今回の震災を教訓に、より一層安全対策を講じるよう要望していきたい。また、国民の間でも自然エネルギーなど新エネルギーに対

（裏面へ）

【質問】子育てと地域連携について

【答弁】現在、6つの地区育成会とスポーツ少年団が2団体あるが、指導者が少なくなるのが現状。しかし、管理職を除き、地元に住んでいる教職員は少なく、その要因は教職員の住環境問題がある。配置計画の中でも含まれていく問題なので、今後、協議していきたい。

する関心は一段と高まっており、他市の導入事例を参考にしながら、当市における自然エネルギーの可能性について模索していきたい。

【質問】東文京町と北文京町の交差点の改善について

【答弁】この交差点に隣接している市道橋「緑橋」には、歩道は設置されておらず、通学路の指定を受けていることから、歩道の設置または拡幅等の整備の必要性は認識している。また、橋梁長寿命化計画の策定を行なっているため、その結果をふまえて今後の対応方法を検討していく。

◆民主クラブ

太田 常美



【質問】公営住宅の建替え計画の進捗状況と今後の見通しについて

【答弁】計画どおりに進んでいる。今後については財政状況等を考えながら進めていく。

【質問】浄水場の機器類更新について

【答弁】年次的に機器類や配水管などを取り替えていく。

【質問】防火水槽及び消火栓の適正配置、管理について

【答弁】防火水槽や消火栓は適正に配置されている。また、冬場の除雪など管理面でも問題なく行っている。

【質問】エゾシカ駆除と対応について

【答弁】道庁との連携のなかで更なるエゾシカ駆除に向けて取り組んでいく。

議会 Note Book

議会報告会に向けて

議会改革検討協議会
会長 五十嵐 美知



日頃より市議会に対し、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

現在、赤平市を取り巻く地域環境は少子・高齢化社会とあわせ、人口減少が顕著に表れてきております。このような現状を踏まえ、当市のまちづくりを市民と行政が一丸となって進めるため、互いの考え、情報を円滑に行き交う状態を作り出すことが、議会が担うべき大きな役目と考えております。

今後、時代にあった活力のあるまちづくりを行っていくために、さらに市民と議会が連携を図り、開かれた議会を目指すために、現在、議会改革検討協議会を立ち上げ、「議会報告会」開催に向け準備を進めております。今後具体的な計画立案をすすめる中で、皆様のご理解、ご協力をいただくこともありますが、何卒よろしく願いいたします。



●来年4月(予定)の開催に向けて、これまで、7回の協議会と他市町の議会にも訪問をし勉強会を行っております。
(写真)8月22日:議会報告会を先駆けて取り組んでいる栗山町議会と美唄市議会に視察訪問の様子



↑8月28日:赤平市議会合唱団、第7回赤い羽根共同募金チャリティーにて「上を向いて歩こう」を歌いました。

あかびら市議会

フォトスタンド



↑9月21・22・26・27日:第3回定例会において、平成22年度各会計の決算審査特別委員会を開催しました。

・編・集・後・記・

山も色付き、秋も深まってきましたが、いかがお過ごしですか?

この度のかやら版は、主に9月議会の内容ですが、会期が下旬だったため、10月の発行に間に合わず、11月号での発行となりました。ご了承下さい。

来月の定例会に向けて、さらに議員も準備をすすめて参ります。是非、傍聴に来て下さいね!

かやら版編集委員 植村・大道・五十嵐・向井

